

要旨

オペラやミュージカルは、複数の創作領域を融合させた総合芸術である。創作においてはより良い成果を得るための試行錯誤が必須であり、舞台演劇においても稽古中に台詞や歌詞、演出の変更を行うことがある。

創作活動においては、小説やイラスト、音楽制作などに、計算機で動くソフトウェアが欠かせない存在となっている。計算機上で制作ができる利点として、何度もやり直しが出来る点や、同一作品の異なる形態を簡単に試作できる点が挙げられる。

舞台演劇における創作活動も、計算機と共創することでより良い作品を生み出す可能性がある。舞台で用いられる創作領域は多岐に渡るため、今回は、計算機が導入されていない訳詞と化粧に焦点を当て、共創の可能性を探求する。

創作補助としては、Large Language Model(LLM)の登場により、プロンプトを入力するだけで、質問に対する回答得たり、イラストを出力したりすることが容易になった。LLMなどを用いたチャットサービスや画像生成は汎用性があるためアイデアを出す段階での相談役として活躍する一方で、限定された状況での使用は困難な場合もある。そのため、条件や制約をあらかじめ考慮した上でユーザに生成内容を提示ができる、専用のインターフェースが必要であると考えた。

舞台芸術における創作環境に専用のインターフェースを提供することを考えた時、課題となる点が存在する。創作においては、より良いものを作成するために、幾度も修正を行い作品を磨き上げる試行錯誤の過程がある。そのため、計算機を用いた創作においても試行錯誤がしやすい、リアルタイムに編集状況が変化するインターフェースが必要である。そして、舞台に携わる人口はプロよりもアマチュアの方が多く、本提案の対象となる全てのユーザに専門的な知識があるわけではない。複雑なパラメータ設定や操作は困難であり、シンプルな操作で編集ができる必要がある。そこで、本論文ではシンプルな操作で創作活動が可能なユーザとの対話がリアルタイムに反映されるインターフェースを提案する。

訳詞においては、訳詞候補を選択し、ひらがなで編集すると、入力した訳詞がリアルタイムに譜面に反映されるインターフェースを提供する。その結果、ユーザが原言語や音楽に対する専門的な知識を持ち合わせていない場合でも、原曲の雰囲気を保ちつつ、歌詞の意味を反映できることを達成した。

化粧においては、アイシャドウ、アイライン、モチーフの特徴を反映したパーツを候補から選択、編

集することで、誰もが簡単に役に基づいた舞台用の化粧デザインが生成できるようなインタフェースを提供する。さらに、転写シールを使うことで個人の技量による仕上がりの差をなくしたメイクができるようになる。その結果、従来の化粧方法よりも舞台メイクに近いデザインが出来ることが確認された。

舞台演劇の分野に計算機を導入することで、試行錯誤がしやすくなり、アイディアの発散や新しい手法や表現の試作につながる。ひいては、演劇界が発展するとともに、舞台はより大衆化し、人々にとって身近な芸術となる。